

糸電話

教育相談課だより
平成30年9月5日
第9号



不登校対応研修講座 第1日の感想から

6月19日に行いました不登校対応研修講座を受講された先生方の感想から、不登校の支援について考えてみたいと思います。

・**教育機会確保法**の知識を高めて不登校の対応をしていきたい。

・「不登校をなくしたい」「10日以上欠席を減らしたい」という思いで参加した。正直、今後の取組の方向性に揺れている。

・不登校の支援の最終目標は「学校に来ること」ではなく、生徒の**社会的自立を促していく**ことだと分かった。自分は教科の中でも生徒の将来を考えながら、**未然防止**につなげていきたいと思った。

「不登校児童生徒への支援の在り方について（通知）」（平成28年9月）には、「『学校に登校する』という結果のみを目標にするのではなく、児童生徒が自らの進路を主体的に捉えて、社会的に自立することを目指す必要がある。」とあります。今まで学校復帰を目指していただけに、受講された先生方の中には戸惑いを覚えた先生もいらっしゃいました。もしかするとこの「糸電話」をお読みになっている方の中にも同様の思いを抱かれている方がいるかもしれません。講座では、「不登校児童生徒への支援に関する最終報告」、「教育機会確保法」、「学習指導要領」等から個々の児童生徒の実態に応じた支援とは何かを理解し、続いて、学校でできることについて協議・演習を行いました。

・**2年間の不登校生徒数をグラフにする**だけで新たな内容が見えてくることに驚いた。**特効薬はないけれど、たくさんヒントをいただいたので、悩みながら進めていきたい。**

・**チーム会議**のロールプレイでは保護者役になり、保護者の不安な気持ちを体験でき、今後、不登校の生徒を支援するに当たって大きなプラスとなった。寄り添う気持ちを大切に、全職員の共通理解を図りたい。

・情報量の多い研修であったが、自分自身でしっかりとかみ砕いて知識としていきたい。同時に、校内でも共有し、**魅力ある学校づくり**を目指して養護教諭としてできることを模索したい。自分の中にある不登校支援の揺らぎを修正できてよかった。

続いて、学校の不登校の実態を的確にとらえて支援を考えるため、今年度新たに不登校の状態になった児童生徒の数と昨年度から継続している児童生徒の数の2年間の推移をグラフにしました。グラフから、学校に必要な取組を考えることができます。さらに支援を行うために、チーム会議のロールプレイを行い、児童生徒理解・教育支援シートを活用した組織的・計画的な支援について研修を行いました。

午後は、不登校が生じない学校を目指した、坂東市立岩井中学校の「魅力ある学校づくり」の実践発表から、「不登校の未然防止に向けた取組」について研修をしました。

・**不登校の未然防止に向けた取組**は今後の学校における最も重要な取組になるのではないかと考える。ここで学んだことを学校全体で共通理解するような校内研修等が必要だと思う。

第1日目を受講された先生方は、新たな視点を得たとおっしゃっていました。子供の社会的自立のために、学校が「今」やらなくてはならない、その子に必要な支援を考えていきましょう。第2日（11月30日）はスクールソーシャルワーカーやスクールカウンセラーの方を招いて実践発表をしていただく予定です。

・不登校児童生徒に学校に来ることを要求することが、子供を苦しめる場合がある。教育は学校だけで行われるものではないということを理解した。ロールプレイでは、保護者の不安感をはじめ、学校が子供や保護者に圧迫感を与えてしまう恐れがあること、また、話し方によっては不信感を募らせることなどが体感できた。「共に考える」スタイルで信頼関係を築き、保護者や本人の意思を確かめながら、その子供に合う支援をチームで取り組んでいくことが分かった。

・不登校の子供や保護者への見方、接し方を改め、支援をしていきたい。

